

## 「2010 冬イベント」

森林からのおくりもの～自然の素材を使って作しましょう

### 「第9回クリスマス★リースをつくいませんか」

平成22年11月31日(火)～12月2日(木)

千葉森林管理事務所

毎回、好評を頂いているこのイベントは、今年も応募者多数のため抽選となり、3日間で48名が参加しました。開催した千葉森林管理事務所周辺は都市近郊のため、森林といえば公園など自然の少ない地域です。なかなか森林との関わりを持つことができない方々にとっては、貴重なイベントだと思います。

職員が協力して国有林から採取したつる、マツボックリ、木の実など自然の素材を使ったリースを作り、イベントを通じて自然に親しみながら、森林・林業のことを見つめ直してもらおうとクリスマス前の時期に開催しています。

お昼からの開催でしたが、とても楽しみにされていたようで受付開始時間よりも前に来られた方が多数いらっしゃいました。揃えた素材の中には初めて見た植物

よりどりみどり



名前わかりますか？



色をつけたり

イベントは、まず所長から国有林についての説明と巧みな話術で雰囲気盛り上げ、リース作りの簡単なレクチャーを行ったあと実際に作ることにしました。

すべて自然のものなので、リースの土台となるアケビなどのつるの輪は大小さまざまあり、どれを選ぶかは飾る場所や持ち帰ることを考えながらそれぞれ決めていきます。土台の上にスギの葉などの素材を取りつけるので、完成品のサイズより一回り二回り小さめのつるを選ぶのが一つのコツです。

何をつければいいのか悩んでいる方は、取り付ける前に載せるだけの状態でデザインとバランスを考えます。基本的な作り方の順番として、まずはスギの葉などを手芸用ワイヤーで巻きつけ、ヘクソカズラなど飾り用のつるを巻きます。テーダマツなど大きいボックリや木の実をワイヤーで取り付け、小さい素材は樹脂接着剤で取り付けます。



今年は気象の影響かサルトリイバラの赤い実が見当たらなかつたため、赤い実の種類が例年より少なかつたですが、ムラサキシキブやカラスウリなどで色鮮やかに仕上がったと思います。

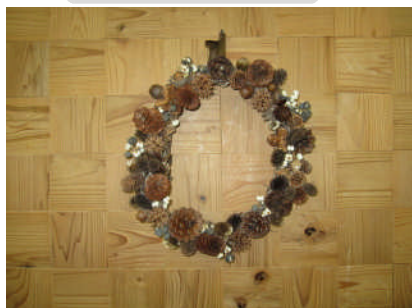
金・銀など一色に統一して、クリスマスだけでなくいつでも飾ることができるデザインにしたり、正月用にも変えられるように工夫するなどバラエティ豊富です。当所で揃えた自然の素材以外にもオーナメントやリボンを自ら用意して、より華やかなリースも出来上がりました。

あれもこれもと素材をつけて、想像した以上に大きくなってしまったリースが袋に入らず、参加者はどう持ち帰るか悩んでいましたが、何とかビニール袋でカバーしました。大事に持ち帰るには袋よりも風呂敷でやさしく包んだほうが良いようです。

毎年、ガールスカウトの方をアドバイザーとして参加をお願いしています。初めて作る方も多いので、親身になって教えていただくと、参加者の方から感謝の言葉を頂いています。このイベントを行った3日間は地域のイベントに出品した木工品も販売しており、参加者以外の方も訪れ買っていただきました。



## 作品集



## 「地域イベントへ参加」

稲毛区民まつり実行委員会主催

「第18回 稲毛区民まつり」

穴川中央公園：10月17日(日)



千葉市稲毛区で毎年開催されている稲毛区民まつりに今年も森林・林業のPRを目的として参加しました。

秋晴れの10月ですが、まだまだ半袖でも過ごせる気候の中、当所では木工品販売・工作体験・竹ぽっくり作りをメインに出店し、多くの方が体験・購入されました。

子どもに大人気なのは竹ぽっくり作りです。自分で竹を切ることが楽しいようで、慣れない鋸に一生懸命でした。小さい子は親御さんをお願いして切っていただいています。高さの揃った竹に職員がドリルで穴を開け、ひもを通すと出来上がりです。竹馬よりも安定するので、小さなお子さんでも安全に乗ることができます。手綱を持って初めは恐る恐る前に進んでいましたが、子供達はすぐにコツを覚えてトコトコ歩いていました。ふと広場を見ると、出来上がった竹ぽっくりに乗りながら会場をまわっている子も見かけました。



どんな車を作ろうか

工作体験では土台となる車体に、枝や木っ端などの材料を自由につけて自分だけの車を作りました。親子で一緒に作ったり、時間ギリギリまで作ったりと楽しそうに工作に没頭していました。パトカーやトラックなどいろいろな車ができあがり、中には2階建ての大きな車までありました。



木工作品販売では、アケビなどのつるやヒノキ板から、桜



などの枝で作った温度計、ドンダンのストラップなど小さなものも展示しました。まだ10月でしたが、クリスマスに向けて松ぽっくりを使ったクリスマスツリーやテータマツのオーナメントを買う方もおり、子供達にと一度に大量購入された人もいました。撤収間際には工作イベントの材料として使いたいと、残っていたアケビづるをすべて買われた人もいました。



毎年ご好評いただいておりますが、残念ながら体験できない方もいました。楽しみにされていた方のためにも来年も続けていきたいと思っております。



切って



穴を開けて



ひもを通せば

## 大多喜町観光協会主催

### 「養老溪谷もみじまつり」

旧会所分校ほか：11月23日(火)



地元団体による和太鼓演奏



木工体験

勤労感謝の日で休日のこの日、大多喜町養老溪谷で毎年恒例の「もみじまつり」が開催されました。時はまさに紅葉の真っ盛り。紅葉狩りのお客さんのために、各会場では地元の農林産物など各種テントが出ていました。

このイベントに、千葉森林管理事務所としても国有林の宣伝の良い機会ととらえ旧会所分校の会場へ出店しました。

各種木工作品は職員が時間の合間を見ながら、せっせと作成した作品であり、いずれもアイデアあふれる作品です。中には「去年も買ったわよ、今も家に飾っている」などの暖かい言葉も寄せられ、売り子に扮した職員には何よりの励ましの言葉となりました。一番人気はテーダ松の松笠で作ったミニツリーで、大きな物は15cm位あります。その他出品したものは、ドングリで作ったストラップ、ドアストッパー、足踏み竹、花台にもなるヒノキ板、ホテイ竹の杖などです。

当日は朝から冷たい風が吹き、朝から雨模様となるなど、作品を並べたはいいものの、ほんとお客さんが来るかしら？と半信半疑でしたが、どっこい時間になると後から後からお客さんが見えられ、「本当にまつりを楽しみにしているんだな」と感じました。

校舎では、地域の活性化のために取り組まれたそば打ちが朝早くから始まっていました。

お客さんはこのソバを目当てに来る人も多く、食事を終えた人は満足そうな顔でした。風が冷たい分、無料で振る舞われた豚汁、牛乳には私たちも身体を温められました。イベント終了間際になると厨房からそばの差し入れがあり、とてもおいしくいただきました。

帰り際、地元の区長さんから「来年も出店よろしくお願ひします」との言葉があり、来年はどのような作品を出そうかなと考えつつ帰路につきました。



クリスマスにいかが？

## 「職場体験・事前森林教室」

当所では環境教育の一環として、森林・林業についてもっと身近に感じてもらおうと職場体験の受け入れを行っています。

事前森林教室は群馬県にある千葉市の施設「高原千葉村」で自然体験学習を行っている中学校のうち、利根沼田森林管理署が実施する「林業体験」・赤谷森林環境保全ふれあいセンターが実施する「いきもの村自然体験」を現地体験プログラムとして選択した中学校を対象に、「事前学習」として行っています。

### ◇高洲第一中学校 職場体験

9月14日(火)～16日(木)

中学2年生男子4名が職場体験に3日間訪れました。

初日は、森林管理事務所はどんな仕事をしているかをビデオを見ながら説明しました。その後「野鳥の森」にある樹木に樹名板をつけるため、彫刻刀を使ってヒノキ板に文字を彫り、また、稲毛区民まつりに出品するため足踏み竹を作りました。切って割るだけと思いきや、竹を踏んだ時にガタガタとならないように安定させるため、平らにならるのが大変そうでした。出来上がった踏み竹は、後日職員がバーナーであぶり油抜きをして、まつりで無事お客さんへと渡りました。大事に使ってくれることでしょう。

2日目は所長から国有林とは何か、森林・林業についての学習を行い、より理解してもらいました。野外では、自分の歩数によって距離がわかる測量方法の一つ歩測で実際に歩いて測ってみました。自分の歩幅がわかれば、どこでもおおよその距離が分かるようになります。また、所に隣接する稲毛国有林内の「野鳥の森」で輪尺やバーテックスなどの専門道具を使い、立木の材積がどのくらいになるか樹木の直径・高さを一つ一つ測って調べました。



3日目は朝から天候が悪く、スケジュールを変更して室内で立体鏡を使い空中写真の見方を教えました。ピントを合わせ立体的に見ることで、樹種の特定や現地の状況が分かります。途中から雨が上がり、国有林と民有林の境に点在している境界標を調べるコンパス測量を行いました。初めて使う機材に苦戦しながらも、覚えるのが早く3日目からはスムーズに作業できるようになりました。最後にお土産として小枝での木工体験をして職場体験は終わりました。

今回は現場へ行くことはできませんでしたが、森林を守るには単純に木を伐るだけでなく、いろいろと作業があると知ってもらえたと思います。生徒たちも互いに協力し、意欲的に取り組んでくれました。これを機会にさらに森林・林業に興味を持ってくれると嬉しいです。

## ◇花見川第一中学校 事前森林教室

10月20日(水)

花見川第一中学校の体育館で中学2年生108名に対してビデオとスライドを使って森林教室を行いました。

現在は温暖化対策の二酸化炭素吸収源として森林の働きは注目されていますが、それだけではなく、災害の防止や生活するための水などにも関わっています。その機能を十分に発揮させるために、人工林での間伐の大切さなどを教えました。ちょうどCOP10開催の時期だったので、京都議定書など国際的にも森林の問題が重視されていることも説明しました。



説明が終わった後、残りの時間は質問に答えることにしました。「木1本で紙がどのくらいできるか?」、「林と森の違いは?」、「学校近くにある市民の森は人工林か?」などやはり身近なものに関心があるようでした。その場で答えられなかった質問には後日、調べて回答しました。

自分たちの生活が森林のよってどう守られているか、そして守っていかなければならないのか考えるきっかけとなればと思います。

## ◇稲毛中学校 職場体験

11月9日(日)~11日(木)

中学2年生男子3名が職場体験に訪れました。

1日目は森林管理事務所の概要を説明し、森林内の作業の安全や危険について話しました。「自然の中ではちょっとしたことで大怪我に繋がることがあります。危険な動植物や地形など、常に意識して行動できるよう注意してください。」所長からの講義を行ったあと、コンパス測量のやり方を説明し、実際に一人一人測ってみました。個々の成果のデータを入力して製図すると全員同じ結果になるか確認しました。



2日目には実際に山へ行って間伐体験を行いました。場所は君津市戸崎国有林。千葉森林管理事務所から1時間半ほどかかるところです。地区担当の上総森林官が指導の下、標準地調査と定性間伐を体験しました。最初に区域を決め、その中の木を一本一本測って材積を計算しました。林内はかなり枝が張っていたので、樹高を測ることが難しいようでしたが、だんだん慣れてきたようで目測でも分かるようになってきました。どの木を伐れば地面に光が入って山が成長するのか、木と木の間隔を考えて選別しました。なかなかどれを残せばいいのか悩み悩みでしたが、みんなで話し合い、決めることができました。



材積を計算しました。林内はかなり枝が張っていたので、樹高を測ることが難しいようでしたが、だんだん慣れてきたようで目測でも分かるようになってきました。どの木を伐れば地面に光が入って山が成長するのか、木と木の間隔を考えて選別しました。なかなかどれを残せばいいのか悩み悩みでしたが、みんなで話し合い、決めることができました。

青空の下、お昼を食べ休んだ後、手鋸で間伐体験をすることになり、丸太切りの経験がある生徒でも、初めての伐倒では姿勢や鋸の扱いが違って悪戦苦闘でした。一生懸命に鋸を動かした分だけ、倒した瞬間の達成感が味わえたと思います。数本倒したあと光が地面まで届き、伐る前と後の様子がまるで違いました。伐倒した木が調査したとおりの樹高が確かめるため、巻尺で実際に計ってみました。結果は見事でした。作業記念のお土産として丸太の端を持ち帰りました。

3日目の午前は標準地調査の結果を書類にまとめたあと、刃物砥ぎを行いました。山に行くとき必ず携行する鉋はよく切れるよう適度に砥ぐことが必要です。

午後からは丸太がどのように世の中に出て行くのかを身近に感じてほしいと、千葉県木材市場協同組合と株式会社マルトシを見学させていただきました。

千葉県木材市場協同組合ではちょうど市場が開かれ、セリの様子を見ながら案内していただきました。生徒たちは競り人の口の速さに舌を巻き、また、丸太から製材された木が角材や板などいろいろな用途に分かれていることの説明を受けました。木を選別する機械やバーの長さ180cmもあるチェーンソーで丸太の切り口をきれいにする作業に興味津々で見っていました。25kgもあるそうで持ち上げるだけでも大変です。陳列された丸太の中には樹齢200年生の山武スギもありました。同じ敷地内では木と住の情報館「モクイチ」があり、住宅に使われるいろいろな木製品のサンプルなどが展示紹介され、木材の基礎知識をたくさん知ることができたと思います。お昼の時間には広葉樹伐採の様子をビデオで見て、アドバイザーの方に自分たちが住んでいる家には木がどのように使われているか、木造と鉄筋の違いで住宅環境の差があるなどを教えていただきました。

株式会社マルトシでは下刈・伐採現場で不要とされた枝条などを堆肥化し、建築材の他にも資源は循環していると説明を受けました。まず、どのように木を伐って運んでいるか、高性能林業機械について話した後、リサイクルセンター内を案内していただきました。特殊な機械で廃材などを破碎し、金属をより分けます。そして水を加え、切り替えし自然発酵させて堆肥になります。堆肥の山から湯気が立ち昇っていました。破碎したものは畜産農家などに、発酵させて堆肥となった製品は緑化基盤などに使われるそうです。もしかしたら、学校の花壇に使われている堆肥はここで作られているものかもしれません。



忙しい中、親切に案内いただきありがとうございました。

今回は国有林の職場体験だけでなく、生徒たちにとっては普段の生活の中で接点がない森林・林業について、係わり合って生活しているということを知ってもらえたと思います。生徒たちの関心が高まり、興味を持ってこれからも森林・林業について学んでいって欲しいです。